

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ (GCBⅡ)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	価値ある自分を認識し“志”を立て行動すること、あきらめずに強く人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。 先人の生き方や言葉から“志”の立つとき、“志”とは何かを学ぶ。 先輩やクラスメートたちの考えや意識に触れ自分自身を振り返り、自分の考えや意見も伝える機会を持つ。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		考えることの大切さを知る。	
	○			○		自分の言葉で伝える大切さを知る。	
	○			○		目標の大切さ、志の大切さを知る。	
	○			○		行動する大切さに気付く。	
テキスト・教材 参考図書	1. GCBⅠテキスト 2. GCBⅡテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	感謝心と思いやりについて(GCBⅠを振り返り)				教科書にて復習	
	2	グローバルシティズンと志				教科書にて復習	
	3	なぜ志を立てることが大切なのか1				教科書にて復習	
	4	なぜ志を立てることが大切なのか2				教科書にて復習	
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来～1				教科書にて復習	
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来～2				教科書にて復習	
	7	伝える力を学ぶ1				教科書にて復習	
	8	伝える力を学ぶ2				教科書にて復習	
	9	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる1				教科書にて復習	
	10	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる2(先輩の講話)				教科書にて復習	
	11	自己の大切さと責任を自覚する				教科書にて復習	
	12	伝える力を実践する1(シナリオ作り)				教科書にて復習	
	13	伝える力を実践する2(3分間スピーチ)				教科書にて復習	
	14	伝える力を実践する3(3分間スピーチ)				教科書にて復習	
15	まとめ				教科書にて復習		
評価方法	(1)レポート 80(%) (2)発表 20(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎		◎		80%
	発表・作品	◎	◎		◎		20%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習								
科目名(英)	Seminar for Anatomy								
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子				
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年								
授業概要	身体の基本的構造として、神経系に関する解剖学的構造の理解を図る。また、組織学の演習より組織に関する構造の理解を図る。講義形式として概要となる講義を実施した後、自ら課題を進め解剖学的構造と名称を理解し、学生間で演習を進める。各項目においてまとめテストを実施し国家試験レベルで理解度を図る。 また、身体の構造位置関係の総理解として、検体解剖見学を実施する。								
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				組織の名称と構造を演習より理解し、国家試験問題で解答できる。			
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。			
	○	○				身体臓器の位置関係や名称を演習より理解する。			
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	身体の構造の理解 神経系Ⅰ 概要(中枢・末梢 神経の概要)				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	2	身体の構造の理解 神経系Ⅱ 中枢神経① 脳の構造				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	3	身体の構造の理解 神経系Ⅲ 中枢神経② 大脳皮質・大脳基底核				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	4	身体の構造の理解 神経系Ⅳ 中枢神経③ 間脳・中脳・橋・延髄・小脳				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	5	身体の構造の理解 神経系Ⅰ～Ⅳのまとめ				国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。			
	6	身体の構造の理解 感覚器				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	7	身体の構造の理解 脳神経・自律神経				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	8	身体の構造の理解 脊髄の構造・脊髄神経				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	9	身体の構造の理解 伝導路(遠心性・求心性)				構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	10	身体の構造の理解 感覚器～伝導路までのまとめ				国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。			
	11	組織学演習①				演習にて自己学習を進める			
	12	組織学演習②				演習にて自己学習を進める			
	13	組織学演習のまとめ				確認テスト 国家試験問題にて確認			
	14	肉眼解剖学演習				検体 解剖より理解を得る			
15	解剖学演習全体のまとめ				解剖学の範囲の国家試験問題に解答できる。				
評価方法	(1定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%		
	各項目のテスト	○	○				30%		
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。								

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	坂口 博信 大津 隆一		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにするを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂 参考文献: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	電気生理の基礎			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)			実習した内容を復習し、実習につなげていくこと		
	3	レポート作成			実習した内容をレポートにまとめる		
	4	知覚と行動(脳の仕組み)			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	5	実習 随意運動の反応時間			実習した内容を復習し、実習につなげていくこと		
	6	レポート作成			実習した内容をレポートにまとめる		
	7	体性感覚			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	8	実習 体性感覚(2点識別・重量感覚)			実習した内容を復習し、実習につなげていくこと		
	9	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	10	レポート作成			実習した内容をレポートにまとめる		
	11	脳波 レポート作成			実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること		
	12	心電図			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	13	心電図 レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	14	呼吸量			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
15	呼吸量 レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実習レポート	◎	◎	○			50%
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅱ						
科目名(英)	KinesiologyⅡ						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行)</li> <li>・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行)</li> <li>・運動の学習について理解する。(運動学習)</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。	
	○	○				運動器疾患で見られる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一・齋藤宏・長崎浩:基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版,2015. 2)嶋田智明・平田総一郎 監訳:筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版,2012. 3)配布資料 参考文献: 1)Frank H Netter(相磯貞和訳):ネッター解剖学図譜. 丸善株式会社,2001. 2)J A Kapandji(荻島秀男監訳):カパンディ関節の生理学. 医歯薬						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)			資料・テキストを用いて復習		
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能			Webテストの実施		
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能			Webテストの実施		
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能			Webテストの実施		
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序			Webテストの実施		
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靭帯、関節の運動)			資料・テキストを用いて復習		
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学			Webテストの実施		
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靭帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)			資料・テキストを用いて復習		
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能			Webテストの実施		
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形			Webテストの実施		
	11	体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学			Webテストの実施		
	12	下肢のまとめ 正常歩行(歩行周期)			資料・テキストを用いて復習		
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動) 異常歩行			Webテストの実施		
	14	運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ) 運動学習(運動学習理論、運動療法で展開される運動学習の戦略)			Webテストの実施		
15	全体のまとめ			資料・テキストを用いて復習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Development						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	小野 仁		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部1年						
授業概要	発達障害のリハビリテーションを実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあっている発達多様性を小児期を中心に学習する。また、各ライフステージにおいて、人として前向きに生きるということを考える。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。	
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。	
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。	
				○		保育園実習で、こどもたちの安全に配慮し、こどもたちと楽しく一日過ごす。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献:(1)社団法人日本作業療法士協会監修:作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 (2)上田礼子:生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 (3)J.H.de Hass:乳児の発達一写真で見る0歳児一、医歯薬出版、1977 (4)上杉雅之:イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人間発達とは?				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	2	発達理論とその価値観;運動発達、認知・心理発達の視点から				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	3	発達理論とその価値観;行動発達、社会的発達の視点から				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	4	運動機能の発達;体格、姿勢の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	5	保育園実習				一日こどもたちと過ごすので体力が必要です。その他、準備物等は伝えますので、当日忘れないようにして下さい。	
	6	保育園実習後のグループ発表				—	
	7	運動機能の発達;胎児期～新生児期				Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	8	運動機能の発達;胎児期～新生児期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	9	運動機能の発達;幼児期～学童期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	10	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階				開始時に小テストを実施します。授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	11	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	12	情緒の発達;乳児期～学童期のパーソナリティの発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	13	社会性の発達;乳児期～学童期の日常生活能力の発達				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	14	言語の発達;乳児期～学童期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
	15	遊びの発達;乳児期～学童期				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習し、Classiで配信する質問に返答して下さい。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。(3)毎授業後Classiで質問を配信します。以上を下記の観点・割合で評価します。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	グループ発表、Classiへの返答	○	○		○		20%
履修上の注意	※毎授業の後、理解確認のため、Classiで質問を配信しますので、何かしらの回答をお願いします。 ※保育園実習の日程を調整が必要ですので、順番は前後する可能性があります。10月を予定しています。						

科目名	基礎医学講座Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	原田 芳美				
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院/訪問リハで勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造と機能について、図や表を確認し、理解しながら覚える。</li> <li>・解剖学、生理学、運動学の授業と関連させながら対象範囲の国家試験問題を実施する。</li> <li>・授業範囲の国家試験対策ノートを作成する。</li> </ul>								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○		○		筋の名称、位置、機能を説明することができる。			
	○	○		○		神経系の機能構造について説明できる。			
	○	○		○		授業内容に沿った作業療法士国家試験の問題を解答し説明することができる。			
	○	○		○		授業の範囲において国家試験対策に活用できるノートの作成することができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:1.あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル社 2.中村隆一, 齋藤宏:基礎運動学. 医歯薬出版株式会社 3.								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	神経系Ⅰ(神経線維・興奮伝導・シナプス・神経回路)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	2	神経系Ⅰ(神経線維・興奮伝導・シナプス・神経回路)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	3	神経系Ⅱ(中枢神経系の構造と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	4	神経系Ⅱ(中枢神経系の構造と機能)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	5	神経系Ⅲ(末梢神経:自律神経・脳神経)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	6	神経系Ⅲ(末梢神経:脊髄神経・感覚器の構造)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	7	神経系Ⅳ(伝導路)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	8	神経系まとめ				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	9	筋系Ⅰ(顔面・呼吸)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	10	筋系Ⅱ(体幹の筋)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	11	筋系Ⅲ(上肢の筋1)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	12	筋系Ⅲ(上肢の筋2)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	13	筋系Ⅳ(下肢の筋1)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	14	筋系Ⅳ(下肢の筋2)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
	15	運動(運動機能の調節)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。			
評価方法	(1)各項目の内容の国家試験対策ノートを作成する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎					70%		
	小テスト	◎					30%		
	宿題・レポート								
	発表・作品								
履修上の注意									

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしているために、他者とのかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	◎	◎			心理アセスメント(知能検査, 性格検査, 適性検査)を列挙できる。		
	◎	◎			発達および人格理論の種類と概要を説明できる。		
	◎	◎			各種心理療法の種類とその概要を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫(著)ナカニシヤ 出版 参考文献:「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 渡邊映子・勝倉孝治編集 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	2	人格理論①:精神分析理論、分析的心理学				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	3	人格理論②:自己理論、自己愛理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	4	発達理論①:分離-個体化理論、対象関係論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	5	発達理論②:漸成発達理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	6	心理アセスメント①:アセスメントとは、発達検査、知能検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	7	心理アセスメント②:人格検査(質問紙法)				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	8	心理アセスメント③:人格検査(投影法)、その他の検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	9	心理療法①:基本的態度、クライエント中心療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	10	心理療法②:精神分析療法、分析的心理療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	11	心理療法③:遊戯療法、芸術療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	12	心理療法④:森田療法、家族療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	13	心理療法⑤:行動療法、認知行動療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	14	心理療法⑥:自律訓練法、集団精神療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	ヒトの各器官を構成する組織の基礎的働きを知り、各臓器に発生する主だった疾病の成り立ちの機序と病態を理解する。疾病を先天異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、腫瘍と大きく5項目に分類しながら、それぞれの特徴をとらえ、疾患の基礎的概 念を理解し、人に説明することができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを習得した上で病理学において、病気の原因や病態を知り、説明できる。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に説明できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1)第5版 医学書院 参考文献: 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生物学と病理学				資料・テキストを用いて復習する。	
	2	病理学概論				資料・テキストを用いて復習する。	
	3	病気の分類				資料・テキストを用いて復習する。	
	4	細胞の損傷と適応				資料・テキストを用いて復習する。	
	5	創傷治癒				資料・テキストを用いて復習する。	
	6	循環障害概論(1)				資料・テキストを用いて復習する。	
	7	循環障害概論(2)				資料・テキストを用いて復習する。	
	8	炎症と免疫応答				資料・テキストを用いて復習する。	
	9	アレルギー概論				資料・テキストを用いて復習する。	
	10	再生医療、感染症				資料・テキストを用いて復習する。	
	11	代謝障害				資料・テキストを用いて復習する。	
	12	遺伝障害と胎児障害				資料・テキストを用いて復習する。	
	13	腫瘍概論(1)				資料・テキストを用いて復習する。	
	14	腫瘍概論(2)				資料・テキストを用いて復習する。	
	15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。	
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	整形外科学						
科目名(英)	Orthopedic Surgery						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福岡大学整形外科教室		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。	
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。	
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	整形外科概論 (整形外科とは、運動器の評価及び検査法、治療法)				テキストを用いた復習	
	2	骨折 1 (上肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習	
	3	骨折 2 (体幹・下肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習	
	4	脊髄損傷				テキストを用いた復習	
	5	関節における外傷性疾患 (捻挫(TFCC)、脱臼(肩・肘・股関節など)				テキストを用いた復習	
	6	末梢神経における外傷性疾患 1(外傷性疾患各論)				テキストを用いた復習	
	7	末梢神経における外傷性疾患 2(絞扼性神経障害・その他)				テキストを用いた復習	
	8	腱・靭帯における外傷性疾患(筋・腱・靭帯の概念、腱板断裂、手の腱損傷)				テキストを用いた復習	
	9	スポーツ障害(スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷)				テキストを用いた復習	
	10	熱傷、切断と離断(熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他)				テキストを用いた復習	
	11	先天性骨・関節疾患(代表的な疾患とその特徴)				テキストを用いた復習	
	12	循環障害と壊死性疾患(骨壊死、骨端症など)				テキストを用いた復習	
	13	骨・軟部腫瘍				テキストを用いた復習	
	14	神経・筋疾患(脳性麻痺、神経麻痺)				テキストを用いた復習	
15	脊椎の疾患(脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア)				テキストを用いた復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	内科学						
科目名(英)	Internal medicine						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	伊藤 実喜		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	即臨床に役立つ内科の基礎を学びます。講義の内容はほぼガイダンスに従いますが、随時最新医学情報を取り入れます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各疾患の特徴や病気の成り立ちを理解することができる。	
	○					医療現場の実情や新しい知見を知ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	診断と治療・症候学			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	2	循環器疾患 総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	3	循環器疾患 各論1			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	4	循環器疾患 各論2			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	5	呼吸器疾患 総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	6	呼吸器疾患 各論1			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	7	呼吸器疾患 各論2			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	8	消化器疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	9	肝胆膵疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	10	代謝性疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	11	腎・泌尿器疾患総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	12	腎・泌尿器疾患各論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	13	血液・造血管器疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	14	膠原病・アレルギー疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	15	感染症疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	居眠り学生には厳しく対応します。発表するときは大きな声をお願いします。国試対策として小問題プリントを行います。						

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	井本 理美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・デイケアにて作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	神経内科における基礎知識や各種疾患における特徴や評価などについて学ぶ。 神経内科疾患についてイメージ出来る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科における関連基礎知識を学び、具体的に説明・解説することが出来る。	
	○	○				各疾患・症状について特徴などを最低3つは記述出来る。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学:医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版 病気が見える⑦脳・神経 第2版:メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	神経内科疾患を知る(DVD鑑賞)				神経内科疾患をいくつか事前に調べる	
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学①				神経内科に関与する解剖・生理・病理学について事前学習	
	3	神経内科に必要な生理、病理、解剖学②				神経内科に関与する解剖・生理・病理学について予習・復習	
	4	脳神経(前編)				脳神経について復習	
	5	脳神経(後編)				脳神経について予習・復習	
	6	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど /小テスト				神経内科の対象疾患における検査方法について事前学習・小テストの学習	
	7	意識障害、記憶				意識・記憶に関して事前学習・復習	
	8	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺				各種症状について事前学習・復習	
	9	感覚路、自律神経、末梢神経について				各種症状について事前学習・復習	
	10	錐体外路と不随意運動(感覚経路)、反射				各種症状について事前学習・復習	
	11	失調症の検査と診断				各種症状・検査などについて事前学習・復習	
	12	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)				各種症状について事前学習・復習	
	13	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)				各種症状について事前学習・復習	
	14	嚥下機能、気管切開、胃ろう				機能とその低下時の対応について事前学習	
	15	まとめ				講義全体について課題部分を確認・復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	pediatrics						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	伊藤 実喜		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。生命の不思議な働きを発表形式で学習します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		△		作業療法士にとって必要な小児疾患の基本的知識を習得し、小児のリハビリテーションに応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	理学療法学 作業療法学専門基礎分野 小児科学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	小児科学概論			教科書で復習すること		
	2	新生児・未熟児疾患・先天異常と遺伝病			教科書で復習すること		
	3	神経・筋・骨系疾患			教科書で復習すること		
	4	循環器疾患			教科書で復習すること		
	5	呼吸器疾患			教科書で復習すること		
	6	感染症			教科書で復習すること		
	7	消化器疾患			教科書で復習すること		
	8	内分泌・代謝疾患			教科書で復習すること		
	9	免疫・アレルギー・膠原病			教科書で復習すること		
	10	腎・泌尿器系・生殖器系・腫瘍性疾患			教科書で復習すること		
	11	心身症・神経症・重症心身障害児			教科書で復習すること		
	12	眼科・耳鼻科的疾患			教科書で復習すること		
	13	まとめ			教科書で復習すること		
	14	まとめ			教科書で復習すること		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		80%
	小テスト	○	○				10%
	レポート	○	○		○		10%
履修上の注意	①授業中学生さんには質問しますので大きな声で答えて下さい。 ②グループ形式でテーマを発表してもらいます。 ③居眠り学生は退席させます。④国試対策として小問題プリントを行います。						

科目名	精神医学 I						
科目名(英)	Psychiatry I						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	① 精神機能や精神疾患についての理解 ② 精神疾患の症状や治療・福祉などについて理解する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神機能や精神疾患について説明できる。	
	○	○				精神疾患の症状や治療・福祉などについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	上野武治 著: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学: 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	三大精神病と3つの成因			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	精神機能の評価(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	精神機能の評価(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	統合失調症(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	統合失調症(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	統合失調症(3)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	感情障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	感情障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	神経症性障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	神経症性障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	摂食障害、行動の問題、性の障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	人格の障害とDSM、ICD診断基準(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	人格の障害とDSM、ICD診断基準(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	これまでのまとめ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	定期試験						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床医学講座 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	臨床医学の中で内科学と整形外科を中心に、国家試験の該当問題を解答できるよう知識を身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		循環器・呼吸器・消化器について解剖学・生理学の知識を得る。	
	○	○		○		循環器・呼吸器・消化器の疾患について理解する。	
	○	○		○		骨折・変形性関節症について知識を得る。	
	○	○		○		内科学・整形外科の出題頻度の高い問題に解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1.「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院 2. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	骨折Ⅰ(骨折とは、骨折の分類、骨折の治癒機序、骨折の治療法)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	2	骨折Ⅱ(上肢の骨折)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	3	骨折Ⅲ(下肢・体幹の骨折)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	4	変形性関節症Ⅰ(変形性関節症とは、変形性関節症の病理)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	5	変形性関節症Ⅱ(変形性関節症の治療)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	6	循環器Ⅰ(循環器の解剖と生理、心電図の見方)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	7	循環器Ⅱ(聴診の行い方、代表的な循環器疾患:不整脈・心不全)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	8	循環器Ⅲ(虚血性心疾患、血管疾患)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	9	呼吸器Ⅰ(呼吸器の解剖と生理、胸部X線)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	10	呼吸器Ⅱ(スパイロメータの見方、代表的な呼吸器疾患:肺炎)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	11	呼吸器Ⅲ(代表的な呼吸器疾患:閉塞性・拘束性換気障害)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	12	消化器(消化器の解剖と生理、代表的な疾患:肝疾患、膵臓疾患)				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	13	糖尿病				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
	14	内分泌疾患				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。	
15	まとめ				教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
評価方法	(1)各項目の内容の国家試験対策ノートを作成する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to Rehabilitation II						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	リハビリテーション関連職種役割を学び、各分野によってどのようなチームアプローチがなされているのを知る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各専門職と役割について説明できる	
	○	○				各リハビリテーションの分野・領域における専門職の役割を説明できる	
	○	○				チームアプローチについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:セラピストのための概説リハビリテーション(文光堂) 参考文献:PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論-要点整理と用語解説(診断と治療社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーションに関連する専門職			教科書の予習をしておく。		
	2	作業療法士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	3	理学療法士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	4	言語聴覚士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。		
	5	医師(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	6	看護師(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	7	義肢装具士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	8	介護福祉士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。		
	9	医療ソーシャルワーカー(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	10	臨床心理士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	11	精神保健福祉士(役割と独自性)			教科書の予習をしておく。		
	12	身体障害分野でのチームアプローチの実際			教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。		
	13	精神障害分野でのチームアプローチの実際			教科書の予習をしておく。		
	14	発達障害分野でのチームアプローチの実際			教科書の予習をしておく。		
15	まとめ			教科書の予習をしておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
履修上の注意	授業計画は変更になることがあります。事前に連絡致します。						

科目名	作業療法評価学 I						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	リハビリテーションにおける評価とは何かを学習する。その中でも、面接・観察、その記録方法の概要を学習する。作業に焦点を当てた評価ツールを用いて、作業療法における面接・観察の視点を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法における評価の視点を説明できるようになる。	
		○	○			作業療法面接評価であるCOPM・OSA-IIを使用し、作業上の問題を聞き出せるようになる。	
		○	○			作業療法観察評価であるACIS・AMPSを用いて観察視点を増やすことができる。	
	○	○				人の作業上の問題が生じている理由を、人間作業モデルの枠組みを使って説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	①オリジナルテキスト ②COPM・AMPSスターティングガイド(医学書院) ③作業に関する自己評価 使用者手引き(日本作業行動研究会) ④コミュニケーションと交流技能評価 使用者手引き(日本作業行動研究会) 参考文献:※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	評価の意味と目的・・・作業療法評価とは何のために行うのか?				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	2	面説について 観察について					
	3	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM概要)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	4	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	5	COPM評価演習				COPMの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと	
	6	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA概要)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	7	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA実施方法と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	8	OSA評価演習				OSAの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと	
	9	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS概要)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	10	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS技能項目)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	11	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS演習)					
	12	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS概要)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	13	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS運動技能項目と演習)				小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと	
	14	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS処理技能項目と演習)					
	15	授業全体のまとめ				全てのテキスト/資料を用意しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを2回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				50%
	小テスト		◎				20%
	実技レポート	◎		◎	○		30%
履修上の注意							